

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49 50	声掛けをしても、買物に出かける意欲のある方が減少してきている。ホームの皆様も高齢化し認知症も重くなられてきている。一緒に出かけ、お金を使い買物をする日常を取り戻してもらいたい。	ご利用者に、買物に行く楽しみを持って頂けるよう話しかけ、出かける意欲を引き出す。	職員が時間の取れる16時より、マンツーマンの個別対応で、近隣のお店に出かける。週1回を最終目標とするが、当面は月2回程度とする。各階誘い合わせ、2組以上で行う。	1ヶ月
2	40	『バランスの良い食事の提供・時間のゆとりによるレクリエーションの充実・ご利用者の負担の軽減』という理由から、現在併設の施設で調理を行なっているが、保持能力を生かすという理念からかけ離れてきている。	認知症の進行を遅らすためにも、調理という作業を積極的に取り入れ、達成感を味わって頂く。各ご利用者の状態に合わせ、できる事をして頂き、自信に繋げていく。	現在、手作り料理は月に1回、手作りおやつのは数は、階により異なっている。毎週1回以上、料理又は、おやつを作ることを目標とする。各階のご利用者の状態にあわせ、ご利用者が参加できるものを作る。	2ヶ月
3	19	当ホームはご家族の面会が多く、それだけに、ご家族が余り来られないご利用者は寂しい思いをされている。	全てのご利用者に、ご家族と共有する楽しい時間を持って頂く。ご本人とご家族の絆を、さらに深めるためのお手伝いをさせて頂く。	無理の無い程度で来て頂けるよう毎月のお便りで働きかける。面会後の喜ばれていた様子や、ご家族の話がされる時の嬉しそうなお様子をお伝える。ご家族の悩みを傾聴し、不安を取り除くことにより、両者がより良い関係になれるよう支援する。	3ヶ月
4	3	地域の方々とは良好な関係を築き、介護方法・認知症等についての個別相談にはお応えしているが、事業所全体の取り組みとしての地域貢献が不足している。	地域の認知症ケアの向上のために、事業所としてできることを模索していく。地域に貢献することにより、地域との連携を強化し、認知症への理解と協力に繋げる。	町内会・老人会等に積極的に働きかけ、『介護方法』・『認知症予防』・『介護予防』等の講習会を開かせて頂く。	6ヶ月
5	14	研修会・勉強会を通じ、他の事業所との交流は行なっているが、交換訪問には至っていない。	他の事業所の取り組みを参考にし、サービスの質の向上を図る。他の事業所と交流を図り、互いの問題点を別の視点から解決していく。	他の事業所に働きかけ、数名ずつ相互訪問し合う等の機会をつくる。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。